

青少年教育指導者等の養成及び資質向上事業

「第42期はなやまボランティアスクール」

1. 趣旨

全国28施設の国立青少年教育施設でボランティア活動が行える「法人ボランティア養成カリキュラム」において、ボランティア活動に必要な理論と技術についての実践的な研修を行い、ボランティア活動に積極的に取り組む意欲を高める。

2. 事業の概要

(1) 期日 令和3年5月22日(土)～5月23日(日)【1泊2日】

(2) 参加者

①参加対象 高校生以上のボランティア活動を志す方(一般成人・学生・高校生) 40名程度

②参加人数57名

		10代	20代	30代
男性	22名	9名	13名	0名
女性	35名	21名	14名	0名

【参加者の所属先】

・東北福祉大学・東北学院大学・宮城教育大学・宮城学院女子大学・東北工業大学・盛岡大学短期大学部・岩ヶ崎高等学校・古川黎明高等学校・古川工業高等学校・築館高等学校・一関第一高等学校

3. 企画運営のポイント

○先輩ボランティアに、アイスブレイクを任せたり、ボランティア活動の意義で自身の経験を話させたりする場面を設けるなど、身近なモデルとして活躍させることで、参加者にボランティアの役割のイメージを持たせ、今後のボランティア活動につながるようにした。

○講義の中にもグループワークを設け、参加者が主体的に関われるようにした。

○安全管理の演習では、救急救命法の他にもテーピングの巻き方や危機管理について考える時間を設け、より野外での活動に役立つような内容にした。

4. 日程 「法人ボランティア養成カリキュラム」科目名で記載

	5月22日(土)	5月23日(日)
午前	<開講式> 9:30 <説明Ⅰ> 9:50～10:50 「青少年教育施設におけるボランティア活動」 〔担当〕 国立花山青少年自然の家 職員 先輩ボランティア <講義Ⅰ> 11:00～12:00 「青少年教育施設の現状と運営」 〔講師〕 国立花山青少年自然の家 所長	<演習Ⅱ> 9:00～12:00 「ボランティア活動の技術」 花山プログラム体験：野外炊事 〔担当〕 国立花山青少年自然の家 職員 先輩ボランティア
午後	<演習Ⅰ> 13:00～16:00 「安全管理」 〔講師〕 くりこま高原自然学校 塚原俊也氏 国立花山青少年自然の家 次長 <講義Ⅱ> 16:10～17:40 「青少年教育における体験活動」 〔講師〕 国立花山青少年自然の家 次長	<説明Ⅱ> 13:30～15:00 「登録制度について」 〔担当〕 国立花山青少年自然の家 職員 <閉講式> 15:00 「修了証授与」
夜	<講義Ⅲ> 19:00～20:30 「ボランティア活動の意義」 〔担当〕 国立花山青少年自然の家 職員 先輩ボランティア	

5. 主な活動内容

①講義Ⅰ「青少年教育施設の現状と運営」



②演習Ⅰ「安全管理」



③講義Ⅲ「ボランティア活動の意義」



④演習Ⅱ「ボランティア活動の技術」



6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：82.5% やや満足：17.5% やや不満：0% 不満：0%

(2) 参加者の声

- ・職員の方、先輩ボランティアの方々は非常にやさしく、本当にこのボランティア活動を楽しんでいるのだなと感じました。
- ・ボランティアをすることで自分を高めることができるのはいいことだと思いました。
- ・Comfortゾーンにとどまっていると安心して楽であるが、一歩踏み出してCゾーンを突破することが成長につながるとわかった。
- ・セーフティートークで私たちが気づかないところで子供たちについて考えているのだなと思いました。
- ・今度はボランティアとして活躍できるように頑張りたいと思いました。

(3) 成果

- ・先輩ボランティアの活躍する姿や、職員、講師から得る学びから、参加者に今後のボランティア活動について高い意欲を持たせることができた。
- ・コロナ禍で十分な広報活動ができなかったが、様々な大学・高校から参加者を募ることができた。
- ・野外炊事や安全管理など実際に役立つ技術を伝えることができた。

(4) 課題

- ・高校生と大学生では講義の理解度が違うため、一部の高校生には講義が難しかったという意見も見られた。講義の中でもう少しグループで考える時間を入れても良かった。
- ・コロナ禍の事業で部屋割りやグループ活動を同じ所属毎に組んで実施したため、横のつながりの部分で参加者同士がコミュニケーションをとる機会が少なくなってしまった。

担当：事業推進係長 田口康宏